TOSHIBA

2026年度　上期決算

2026年11月13日

株式会社 東芝

© 2026 Toshiba Corporation

業績ハイライト

増収・増益基調が上期を通して継続
営業損益、売上高営業利益率（ROS）、当期純損益は、上期決算として過去最高

(単位：億円)	FY25 上期	FY26 上期	FY25 上期実績との比較
売上高	16,138	**19,620**	+3,482
営業損益(引当金等前)	1,160	**2,378**	+1,218
ROS	7.2%	**12.1%**	+4.9%pt
引当金等 ※1	▲6	**▲31**	▲25
営業損益	1,154	**2,347**	+1,193
ROS	7.2%	**12.0%**	+4.8%pt
営業外損益	2,784	**33,978**	+31,194
うち、キオクシア ※2 関連損益	1,057	**33,689**	+32,632
税引前損益	3,938	**36,325**	+32,387
当期純損益	3,160	**25,283**	+22,123
EBITDA ※3	1,662	**2,842**	+1,180
EBITDA margin	10.3%	**14.5%**	+4.2%pt
FCF ※4	3,050	**17,259**	+14,209
営業CF	1,124	**1,707**	+583
投資CF	1,926	**15,552**	+13,626
期中平均為替レート(米ドル)	146円	160円	+14円

注：当社の連結財務諸表は米国会計基準に基づいております。

※1： PJ案件コスト精査等　※2： キオクシアホールディングス㈱の略　※3： EBITDA=営業損益＋減価償却費＋減損損失

※4： フリー・キャッシュ・フローは、制限付預金・親会社への貸付の影響を除いています。

© 2026 Toshiba Corporation

2026年度 上期決算についてのコメント

売上高 前年同期比 約2割増収、営業損益 同比 約2倍、本業は好調な業績を維持
営業損益、ROS（12.0%）と、キオクシア株の評価益等が寄与した当期純損益は、
いずれも上期として過去最高を更新

- **売上高**は、**対前年同期で約2割増収**、**営業損益**は、**同比 約2倍**と**同実績を大幅に上回り、営業損益と売上高営業利益率（ROS）12.0%は、ともに上期決算として過去最高を実現**しました。１Qに引き続き、エネルギー、デジタルインフラ、デバイス＆テクノロジーの3つのビジネスセグメント（BS）に、リテール＆プリンティングを加えた**全ての事業領域で増収増益**となりました。
- 営業損益は、**生成AIのメガトレンドが生み出す需要をしっかりと刈り取り、 送変電配電・サーマル、産業システム、HDD等のデータセンター関連事業が好調を継続**したことで、**上期を通して増益**となりました。
- **当期純損益**は、キオクシア株の評価益等により同比約8倍と**大幅増益**となり、**過去最高**となりました。
- 1Qに引き続き、本業は好調な業績を維持しており、中期経営計画『東芝再興計画』の目標である**2026年度全社ROS10%は超過達成の見込み**です。一方で、**エネルギー・インフラを中心に市況は大きく追い風が吹いており、こうした事業機会を着実かつ迅速に取り込み、さらなる成長につなげていく**必要があります。**2027年度以降の中長期的な成長の実現に向け**、エネルギー、データセンター、フィジカルAI、防衛等、**注力分野における収益力の強化に向けた取り組みをさらに加速**してまいります。

© 2026 Toshiba Corporation

2026年度 上期決算の補足説明

項目	概要
売上高	• エネルギーBSは原子力・サーマル＆ハイドロパワー等、デバイス＆テクノロジーBSはHDD・半導体等、デジタルインフラBSは産業システム・社会システム・鉄道・防衛等で増収。リテール＆プリンティングも含め **全ての事業領域で増収となり、全体として前年同期比で2割超の増収**（+21.6%）
営業損益	• 増収による増益に加え、**売価施策や、限界利益率・固定費比率の改善といった経営改革効果・自助努力が、1Qに引き続き寄与し、全ての事業領域において前年同期比で増益** • エネルギーBSは送変電配電・サーマル＆ハイドロパワー・原子力等、デジタルインフラBSは産業システム・社会システム・鉄道・防衛・電池等、デバイス＆テクノロジーBSはHDD・半導体等が好調に推移し、**前年同期比で約2倍の大幅増益を達成し、上期決算として過去最高益を更新（2025年度 上期 1,154億円→2026年度 上期 2,347億円　対前年＋1,193億円）**
当期純損益	• 2Qにおけるキオクシア株の評価益の減益があったものの、キオクシア株売却益等で、**前年同期比で約8倍の大幅増益となり、上期決算として過去最高益を更新（2025年度 上期 3,160億円→2026年度 上期 2兆5,283億円　対前年+2兆2,123億円）**
FCF	• キオクシア株式の売却益等による投資CFの大幅な改善、EBITDAおよび運転資金の改善等による営業CFの改善により、**前年同期比で大幅増（+1兆4,209億円）**
受注高/受注残	• 受注高は、エネルギーBSを中心に好調な受注状況を維持 • 受注残は、エネルギーBSの受注規模の増加に伴い前年同期比で増加 **現行の開示を始めた2018年度以降、最高額を記録**

© 2026 Toshiba Corporation

注意事項

- この資料には、当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。
- これらの記述は、過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信にもとづく見込みです。
- 当社グループはグローバル企業として市場環境等が異なる国や地域で広く事業活動を行っているため、実際の業績は、これに起因する多様なリスクや不確実性（経済動向、エレクトロニクス業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等がありますが、これに限りません。）により、当社の予測とは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。
- 注記が無い限り、表記の数値は全て連結ベースの6ヶ月累計です。

© 2026 Toshiba Corporation

TOSHIBA